

千葉支社は

仕事に見合った 要員配置を!



一月二十七日、千葉支社において、申第八号（営業関係に関する申し入れ・京葉線関係の職場要求）、申第十二号（新木駅特改業務に関する申し入れ）について、団体交渉が行なわれた。

しかし、全面対立の内容となり、現場の切実な要求を一切聞き入れない千葉支社の実態が改めて明らかとなっている。

キヨスク型売店について、昨年十二月ダイ改以前の勤務形態に戻すこと。特に蘇我駅の休日勤務については、一昨年十二月ダイ改以前の勤務形態に戻すこと。

組 キヨスク型売店について、一昨年の「時短」による勤務形態の変更以降、休日の営業時間が増え、業務が複雑となっている。

当 一昨年の時短実施に伴い、営業時間を見直したものである。

組 休日営業についても、乗客が売店を利用する場合、店の開いている時間が違うため、戸惑う。日勤の長時間拘束となり、「時短だ」といっても実感出来ない。

当 時短については、年間トータルとして労働時間が短くなっている。年間のトータルとして考えてもらいたい。休日営業時間の変更についても、時短を確保するために実施している。

組 要は、適切な要員が配置されていないことに問題がある。時短が実感の出来る勤務形態こそ社員の働き易い職場である。

京葉線の各店舗について増員配置を行なわれた。特に、なのはな海浜幕張店について早急増員配置を実施されたい。

組 海浜幕張店については、メッセの各種イベント等が行なわれている。現場の実態は、要員が足りないというのが実態だ。

当 昨年は、アメリカカンフェスティバルがあり、特殊に繁忙であった。支社としても助勤を手配したほうが、いいのではと判断した。

組 イベントのことを強調するが、日常業務が繁忙となっているので、要員が足りないといっているのではある。

当 支社としては、現行の人数の中で対応出来るかと判断している。

組 海浜幕張は、イベントばかりではなく、新しい会社が出るなど、業務が繁忙となっているというのが現場の実感である。確実に、売り上げ実績がのびている。売り上げ実績のデータを示せ。

当 本日は、売り上げデータについての細かい資料はない。要員数については、単に、売り上げがのびているからといって、要員を増やすとはならない。売り上げもひとつの要素だが、販売品搬入をはじめ、業務総体の内容で判断する。

組 現場では、人が足りないのが実態である。次期ダイ改に向けて要員増について、検討されたい。

当 現行体制であると判断している。

新木駅特改業務は防犯及び第三者加害対策上、問題があるので中止されたい。

組 新木駅特改業務については、防犯及び第三者加害対策上、問題がある。

当 防犯ブザーの配備、コードレス電話の設置等、防犯対策を行なっている。また、必要があれば防犯カメラの設置等を検討したい。

組 そもそも二つの出口があるのに、一つの出口だけ特改をやっているからおかしなことになってくる。夜間は酔客が多い。「何故片方の出口だけ特改をやっているのか」としてからんでくる。特改をやるのなら二つの出口でやるべきである。

当 新木駅の特改業務については、一日、二千人以上の乗降客があるので実施している。支社で十二月二十一日の十九時〜二十時まで実態調査と特改を行なったところ、利用者

は上りが乗二八名・降二六名、下りが乗三名・降が六七三名である。発券はほとんどなく、上りが五名発券、清算は三名、下りの清算は六四名であった。

組 それは二つの口で特改をやった結果である。一つの出口では全く意味がない。

当 社員がいるといわないでは、乗客の対応が違う。例えば、三人の運用の中で二人で夜間業務をするということも出来るのではないかと。

組 そもそも長日勤二人体制で始めたのが新木駅の業務であった。それが一昨年からは泊で夜間業務を行なうことになったのだ。特改業務とは、発券することが業務である。夜間業務については全く実績がないではないか。

当 発券業務も含んでいるが、清算業務もお願いしたい。また、社員がいれば定期券も販売出来る。

組 他の駅では、夜間を無人化している。新木駅については、逆行しているではないか。動労千葉・国労の三名について特改に固定化している根拠は何なのか。

当 任用の基準に基づいて行なっている。

定期委員会
2/15日 13時
千葉市民会館